

ノ末同章中第十三條教導職試補ノ者ヲ増加スト有
之ハ若クハ昨七年第七十號公布第三章免役概則中
ノ儀ニテ同章ノ十三條ニ挿入スヘキモノニハ無御
坐候哉此段相伺候條至急御下令仰望仕候以上
伺之趣第三十六号布告ノ通可相心得事 三月四日

廣島縣上申

徵兵令中御改正且御増加ノ儀本月四日第十七號御
布告ノ内第一章中第十三條教導職試補ノ者ヲ増加
ストアルハ第三章中ハノ御増加ニハ無御坐哉管下
ハ布達方浮置奉伺候間至急御指揮被下度此段上申
仕候以上 二月十七日縣

上申ノ趣第三十六号布告ノ通可相心得事 三月四日

十一月五日

八年

第百六十二號

今般徵兵令別冊ノ通改訂候條此旨布告候事 陸軍

大

木

大分縣志

訂改
徵
兵
令

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ丁壯
ヲ募リ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護
ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵
權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封
建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千
有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當
リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セ
サルベカラス今本邦古昔ノ制ニ基

キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵
ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ント
欲ス汝百官有司厚ク朕カ意ヲ體シ
普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ
明治五年壬申十一月廿八日

徵兵告諭

我朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ
日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募
リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ
工タリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武
士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ
官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑
神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ

爾後軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頽弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜テ國ハ封建ノ勢ヲ為シ人ハ兵農ノ別ヲ為ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ言フ可カラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歳ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劔ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ

是ニ於テ士ノ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニアラス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルハ道ニ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ税アラサルハナレ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心カヲ盡シ國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血税ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ得ス是故ニ人々心カヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ

苟モ國アレハ則テ兵備アリ兵備アレハ則テ人々其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ可キラス故ニ今其長スル所ヲ取リ古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ

用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキモノ也

明治五年壬申十一月廿八日

太政官

徵兵令

緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘカラ
サル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ
言フヲ俟タス其法タル古今其制ヲ異ニシ各國
其趣キヲ同フセスト雖要スルニ一ニ民兵ニ因
ラサル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰
ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシテ
兵役ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海
ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員

ニ充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出ラシ者ニシテ
服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵ト
ナリ頗具便益ヲ得ル者ナリ然レモ後日ニ至リ
或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ法
ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各
國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十
年ヲ以程度トス今

國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ
方リ兵役ノ久キ恐ラクハ人民生活ノ業ヲ妨害
シ且當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フヘカ

ラス是ニ於テ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ按キ
現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云
フ

徵兵編成并ニ概則

徵兵ハ國民ノ年甫メテ二十歳ニ至ル者ヲ徵シ
以海陸兩軍ニ充タシムル者ナリ今爰ニ陸軍ヲ
大別シテ三種トナス其一常備軍其二後備軍其
三國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ五派ノ
兵種ニ區別ス曰ク砲兵曰ク騎兵曰ク歩兵曰ク
工兵曰ク輜重兵而各種ノ兵皆各管鎮臺ノ國郡
ヨリ召集シ若干年ノ役ヲ帶ハシメ所管鎮臺ニ
備ヘ以地方ノ守衛ニ充ツ

其一

常備軍ハ本年徴兵ノ抽籤セシ者ヲ以編成シ三
ヶ年ノ役ヲ帶ハシムル者ナリ

第一條 在營中定額ノ日給ヲ與フ其他食

料服類共官給タルヘシ

第二條 强壮ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シ

キ者ハ拔擢シテ近衛兵ニ充ツ

但近衛兵規則別ニ記ス

第三條 陸軍勤仕ノ望アル者ハ願ニ從フ

ヲ檢査ノ上教導團ニ入レ學業進

歩ノ上ハ士官又ハ下士ニ任ス

第四條 技藝ニ熟シ才氣アル者ハ人撰ヲ

以其隊ノ下士ニ任ス

第五條 下士ニ任セラレタル者ハ更ニ七

ヶ年ノ役ヲ帶ハシメ後備兵籍ヲ

除ス最其人材ニ從フテ後備軍ノ

士官又ハ下士ニ任ス

第六條 兵卒ハ總ヘテ三ヶ年ノ服役ヲ有

スト雖大平閑暇ノ時ハ服役ニケ

年以上ニシテ技藝熟練スル者ハ

詮議ノ上歸休ヲ許ス

軍令

歸休證書并ニ規則

年号 何府縣何郡所住居何旗或職業 常備第何番 親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介

徵兵 入營第何番 何某

右入營以來操練ニ勉勵シ其他勤方宜敷候ニ付
令ヨリ何ヶ月ノ間休暇申付候最非常ノ節ハ布
令次第早々歸營可致事

年号月日 何鎮臺

第一則 銃器服類屬具共保存ノ手當ヲナ

シ姓名番号ヲ記シ一ツ書ニシテ
其隊ノ給養戡軍曹ニ引渡し置ク
ベシ

第二則 歸休中ト雖在營ノ心得ヲ以他出
スルモ其管内ヲ出ツルヲ禁ス

第三則 歸休中萬一病氣ニテ期限通り歸
營相成リ難キ者ハ醫師ノ証書及
ヒ府縣ノ証印ヲ取り其筋ヲ經テ
鎮臺へ届出ツヘシ若又父母ノ重

軍令 八

病并ヒニ死没等止ムヲ得ナル事
故出来ノ者ハ醫師ノ証書并ヒニ
其事故ニ係ハル親族及ヒ府縣ノ
証印ヲ以願出ツヘシ其節詮議ノ
上日数ヲ定メ之ヲ許スヘシ

其二

後備軍ハ常備軍三ケ年ノ役ヲ勤メ終リシ者ヲ
以編成シ常ニ家居シ産業ヲ營マシム後之ヲ別
チテ二種トナス曰ク第一後備軍曰ク第二後備
軍是ナリ

第一後備軍ハ二ケ年ノ役ヲ帶ハシノ戦時ニ當
リテハ直チニ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充足
セシム可キヲ以一歳ニ一度屯營ニ召集シ其技
ヲ復習セシムル者ナリ

第一條 屯營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他

食料服類共官給タルヘシ

第二條 技藝ニ熟シ才氣アル者ハ服役中

同軍ノ下士ニ任ス

第三條 服役中他出スルモ管内ノ出ツル

ヲ禁ス若止ムヲ得サル事故アル

時ハ其鎮臺ニ願出テ免許ヲ請フ
ヘシ最復習期限ニ妨碍ス可ラス
第二後備軍ハ第一後備軍ニケ年ノ役ヲ勤メ終
リシ者ヲ以編成シ尚ニケ年ノ役ヲ帶ハシノ第
一後備軍ニ繼キ召集スヘキ兵タルヲ以平時屯
營召集ヲ要ヒサル者ナリ

但服役中管内ヲ出ツル時ハ出入并ヒニ往
先其其筋ヲ経テ鎮臺ヘ届出ツヘシ最第一
後備軍非常屯集ノ節ハ早々管内ヘ歸ルヘ
シ

總ヘテ徵兵ノ服役期限ニ滿ツル者ト雖戰時ハ勿論非
常ノ事故アル時ハ其期ヲ延ハサ、ルヲ得ス

其三

國民軍ハ常備後備兩軍ノ外ニ全國ノ男兒十七
歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ載セ置キ第二
後備軍召集ノ後ハ時機ニ從ヒ隊伍ニ編入シ其
指麾ヲ待ナテ進退セシムル者ナリ

第一章 徵兵官員并ヒニ職掌

第一條 徵兵使

陸軍中佐或ハ少佐ノ内一人之ニ任シ府縣

出張し知事令又ハ参事ト議シ徵兵ノ諸務ヲ總管ス

但時宜ニ由リテハ副使ヲ遣ハシ代理セシム

第二條 徵兵副使

陸軍大中少尉ヲ以之ニ任ス人員ハ巡理府縣、大小ニ應シ正使ヲ佐ケ議官及ヒ軍醫副以下ノ醫官ト共ニ區邑ヲ巡行シ徵兵規則内ノ事件ヲ決議シ抽籤等ノ事ヲ掌ル

第三條 書記

陸軍下士或ハ軍属十等以下十五等迄ノ者ヲ以之ニ任ス人員ハ二人乃至三人トス徵兵使ノ諸記録ヲ掌ル

第四條 議長

府縣ノ知事令参事ノ内一人之ニ任ス徵兵ノ事ニ付キ審斷判決ノ事ヲ掌ル

第五條 議官

屬以下十五等迄ノ者ヲ以之ニ任ス人員ハ徵兵副使ノ數ニ准ス徵兵副使ト共ニ區邑ヲ巡行シ議長ノ職掌ヲ輔翼ス

第六條 議員

區長或ハ戸長ヲ以之ニ任ス人員ハ大抵其
檢査スル所ノ區數ニ倍ス公文ヲ布達シ民
情ヲ上伸スル事ヲ掌ル

第七條 軍醫一人

徵兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨格兵役ニ適ス
ルヤ否ヤヲ檢査スル事ヲ掌ル

第八條 軍醫副ヨリ試補ニ至ル

徵兵副使ニ從ヒ區邑ヲ巡廻ス職掌軍醫ニ
同人員ハ大抵徵兵副使ノ數ニ倍ス

第九條 傭醫

府縣ノ撰ヲ以之ヲ命ス人員ハ其檢査スル
所ノ區數ニ准シ軍醫ニ從ヒ其土ニ生スル
所ノ疾病ヲ具狀シ兼テ檢査ノ事件ヲ記
録ス

第十條 筆生

府縣ノ撰ヲ以之ヲ命ス其人員適宜ニ任ス
ト雖大抵議員ノ數ニ准シ檢査抽籤中ノ件
々ヲ記録スル事ヲ掌ル

第十一條 徵兵使并ニ議長軍醫ハ各府縣ニ

滞在シ徵兵ニ關スル諸務ヲ總裁ス書記之
ニ屬ス副使議官軍醫副以下組ヲ立テ、各
區ニ分行スル者トス

第十二條 徵兵諸官ハ一歳ノ徵兵事務ヲ竣ハ
レハ悉職ヲ解ク者トス

第二章 徵兵使巡行并ニ檢査前事務
第一條 徵兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第
一章中第一條第二條ニ揭示シタル陸軍武
官并ニ軍醫等一行ト為リ府縣ニ出張シ
地方ノ諸官ト合議シ徵兵署ヲ設ケ常備ノ

定員ヲ充タスヲヨリ免役願出テノ者等總
ヘテ徵兵ニ關スル事務ヲ管理ス其出務ノ
時間ハ大抵本省ニ准スト雖遠ニ事務ヲ竣
ハルヲ要スルヲ以時刻ノ變易スルハ時宜
ニ由ルヘシ

第二條 代人料上納兵役免除ヲ願出テシ者ハ
第六章中ノ第十五條第十六條ニ揭示シタ
ル書面ヲ以篤ト取糺シ紛レナキ者ハ聞届
カヘシ

第三條 府縣ヨリ陸軍省ヘ差出シタル徵兵連

徵兵令

主

名簿ヲ照シ當府縣ニ於テ當年徵兵幾人其
内兵種相當ノ人員及ヒ補充ノ員數ヲ算定
シ又免役連名簿并ヒニ箇條書取紀シ中ニ
就キテ學徒ハ學校ノ証書及ヒ科目免許書
等差出タサセ點檢スヘシ
第四條 徵兵ニ採ルヘキ者ハ免役規則ニ適ス
ル者ヲ除クノ外如何ナル苦情之アルトモ
決シテ聞届クヘカラス
第三章 常備兵免役概則
第一條 身ノ丈五尺曲未滿ノ者

第二條 羸弱ニシテ宿病及ヒ不具等ニテ兵役
ニ堪ヘサル者

第三條 院省使廳府縣ニ奉職ノ者
但等外モ此例ニ准ス

第四條 陸海軍ノ生徒

第五條 文部工部開拓其他ノ公塾ニ學ビタル
専門生徒及ヒ洋行修業ノ者并ヒニ醫術馬
醫術ヲ學フ者教導職試補ノ者

但教官ノ証書并ヒニ何等科目ノ免許
書アル者科目ノ等未定

第六條 一家ノ主人タル者

第七條 嗣子并ヒニ承祖ノ孫

但養子約束ノミニテ未實家ニ在ル者ハ此例ニ非ス

第八條 獨子獨孫

第九條 罪科アル者

但除族并ヒニ懲役實決一ケ年以上ノ刑ヲ蒙リタル者

第十條 父兄存在スレ共病氣苦クハ事故アリテ父兄ニ代ハリ家ヲ治ムル者

第十一條 常備兵在役中ノ者ノ兄弟

第四章 徴兵検査

第一條 徴兵検査定日ハ前以陸軍省ヨリ各府縣へ布達レ區括リ日割リヲ以一日幾人ト定メ區長或ハ戸長ノ内順序ニ召連レ出ツヘシ

第二條 徴兵使巡行ノ時節ニ至レハ府縣廳ヨリ各區ニ左式ノ罰紙ヲ渡シ本年徴兵タル者ニ一枚宛渡シ當人ヲシテ朱書ニ示シタ

何郡何姓
何府縣何族或職掌

ル如ク姓名産國住居親ノ名或ハ兄叔伯總
ヘテ戸主タル者ノ名本年月日誕生年月月
日其他罪紙題号ノ下ニ父母ノ存亡ハ勿論
同居ノ祖父母兄弟妻子及ヒ氏神宗門等書
載セレメ人別表ト稱ヘ檢査時各個持参
シ軍醫ニ渡スヘシ
區々ニ渡シタル罪紙ノ残りハ徵兵事務
竣ルノ後府縣廳ヘ返納スヘシ

人別表

何郡何姓
何府縣何族或職掌

何府縣何族或職掌

親名何兄或兄叔伯名弟甥又尼々

徵兵

年号月日		誕生年月日		氏名	
姓	名	姓	名	姓	名
父				氏	
母				神	
祖父				宗	
祖母				門	
兄弟					
姊妹					
妻					
子					

何某

但産國ト現今ノ貫属府縣ト異ル者ハ
表首何郡所産ト書スルノ上ニ其産國

徵兵

徵兵令

府縣ヲ加ヘ若又寄留スル所ニ於テ
服役スル者ハ何郡所住ト書スルノ替
リニ其寄留スル府縣及ヒ何郡所寄留
ト書スヘシ

第三條 徵兵ノ體質ヲ検査スル時ハ徵兵副使
議官各一名列坐ス検査ノ件々ハ総ヘテ軍
醫ノ專任タルヘシ

第四條 徵兵検査ノ席ニ出ツル時ハ各個人別
表ヲ所持シ醫官ニ渡ス醫官ハ書記ヲ掌ル
者ニ渡シ姓名ヲ検査簿ニ留メシメ身体骨

格検査ノ件々ヲ記セシム

第五條 検査呼出シノ時ニ病氣ニテ出席成リ
難キ者ハ時トシテハ其家ニ就キ診断ノ上
一時或ハ固着等ノ病質ヲ糺シ一時病氣ノ
者ハ翌年ノ徵兵ニ廻シ固着ノ者ハ免役規
則宿病ノ者同斷タルヘシ

第六條 検査呼出シノ時ニ父母ノ喪ニ罹リ未
三週間ヲ過キサル者或ハ父母ノ重病及ヒ
一家ノ安危ニ係リ一時止ムヲ得サル事故
出来ノ者ハ夫々詳細書及ヒ戸長ノ証印ヲ

御
手
帳
令

以願出ル者ハ翌年ノ徴兵ニ廻スヘシ

但翌年ニ廻スヘキ徴兵ハ府縣毎ニ別
簿ニ認メ徴兵署ノ捺印ヲ押シ府縣廳
ヘ留置キ當冬ノ徴兵連名簿ト共ニ陸
軍省ヘ差出スヘシ

第七條 徴兵署ニ隔タリタル區邑ハ副使軍醫

副以下ノ醫官及ヒ議官一行トナリ組ヲ分

チ巡廻セシメ相應ノ場所ニ於テ假リニ檢

査場ヲ設ケ其式本署ニ異ルコナシ

第五章 抽籤并ヒニ讀筭試驗

第一條 身体檢査終リタル後檢査簿ヲ案シ兵

役ニ適スヘキ者ヲ点檢シ府縣毎ニ常備抽
籤召集ノ為其定日及ヒ場所共前以布達ス
ヘシ

第二條 抽籤ノ場所ハ府縣廳所在ノ地或ハ管

内便宜ノ地ヲ以ス

第三條 抽籤ヲ五種ニ分チ其身材ニ從ヒ步騎

砲工輜ノ籤ヲ抽カシム

第四條 本年常備ノ缺員ヲ補フ為補充兵ニ
九十日ヲ期トシ常備一ケ年ノ徴員二分ノ

徴
兵
令

律
無
終

第五條 一 以內ノ員數ヲ常備籤ト同時ニ抽カシム
抽籤ノ法ハ籤丁ヲ調ヘ左式ノ如ク籤

札ニ其員數丈ノ番号ヲ記シ籤箱ニ納レ籤
簿方ノ側ニ置キ區分ケ或ハ部分ケニシテ
混雜セサル様一人宛之ヲ抽カリ籤簿方
ハ始終籤簿ニ對シ抽籤ノ正不正ヲ監シ抽
キ畢クレハ其番号ヲ自高聲ニ唱ヘシメ籤
札ヲ受取り籤簿ニ姓名番号ヲ記シ復之ヲ
當人ニ返ス

假令ハ籤丁五百人ナルキハ第一番ヨリ

五百番迄ノ札ヲ納レ之ヲ抽カシム本年
常備定員二百人補充百人ナルキハ二百
番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ常備トナシ二百
一番ヨリ三百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ補
充トシ其餘ヲ以落籤トス

(歩) (騎) (砲) (工) (輜)

何番

籤札ハ厚紙縦横三ツ或ハ
四ツ切ニシテ四ツ折ニテ
レ中分ヲ拵ル

第六條 抽籤當日病氣ノ者ハ父兄親族又ハ戸

省令

長ヲ以代人トス

第七條 抽籤以前ニ常備幾人補充幾人及ヒ籤
丁ノ総員幾人ト白紙ニ大書シ籤丁ヲシテ
之ヲ知ラシムヘシ

第八條 抽籤終リ常備及ヒ補充ニ當リタル者
ハ書翰往復算術寺出来得ルヤ否ヤヲ試ム
ヘシ

第九條 書翰并ヒニ算術ノ試験ハ筆生ノ内算
術ヲ心得居ル者ヲ撰任シ試験場ヲ設ク其
仕法ハ二三行ノ翰牘ヲ讀ミ易キ様三四枚

認ノ并ヒニ十露盤等備ヘ置キ一人宛讀文
算術ノ内出来得ルヤ否ヤヲ問ヒ出来得ル
者ニハ讀文ハ右翰牘ヲ讀マシノ無滞讀ミ
得ル者ヲ上等トシ二字以上誤ル者ヲ下等
トス算術ハ除法以下誤リナキ者ヲ上等ト
ナシ誤リアル者ヲ下等トナス

第十條 試験全ク終ハルノ後籤簿ヲ照シ人別
表ト引合セ姓名住居其他共左式ノ如ク厚
紙長サ五寸幅三寸ノ割符ニ書載ヒ籤簿ニ
引合セ割印ヲナシ番号並ヒニ服役年期ヲ

教令

割印年

月 号

陸軍

兵種
番號

何 某

何府縣何郡所住居何族或職業

親名何男或兄叔伯名第甥又尼人

番号割符

書加へ籤簿順ニ呼出タシ籤札ヲ出タサシ
ノ相違ナキ者ハ籤札ト右番号割符ト引
替へ相渡スヘシ

日

省

右何鎮臺常備軍三ヶ年服役申付候事

補充籤ヲ抽キシ者ハ 右何鎮臺補充

兵九十日服役申付候事

第一後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第一

後備軍二ヶ年服役申付候事

第二後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第二

後備軍二ヶ年服役申付候事

第十一條 補充役ヲ命セラレタル者ハ其家ニ

徴兵

主

歸居シ常備缺員ノ節ハ其鎮臺ヨリ籤順ニ
布達シ何時ニテモ入營ナサシムヘキニ付
キ服役中ハ其管内ヲ出ツルヲ禁ス

但本年常備兵入營期限初日ヨリ算レ
九十日目ノ其日迄ニ常備入營ヲ命セ
ラレサル者ハ即除役ト心得ヘシ

第十二條 補充ヨリ常備軍ニ命セラレタル者
ハ本人入營ノ月日ニ拘ラス総ヘテ自非同
年ノ常備兵入營期限初日ヨリ三ヶ年ノ期
ヲ保ツヘシ

第十三條 常備軍満期ノ者ハ後備軍ノ番号割
符ヲ渡シ而常備役ノ番号割符ニ満期ノ檢
印ヲ押スヘシ

第十四條 第一後備軍満期ノ者ハ第二後備軍
ノ番號割符ヲ渡シ而第一後備役ノ番號割
符ニ満期ノ檢印ヲ押スヘシ

第十五條 第二後備軍ノ番号割符ヲ受ケ服役
二ヶ年ノ後ハ第二後備軍ノ籍ヲ除セラレ
シ者ト心得ヘシ

第十六條 徵兵使ハ各府縣ニ於テ徵兵事件全

兵卒明細連名籍

陸軍省

骨相

顏

長短方圓大小扁平
廣闊等字

額

長短廣狹扁凸等字

眼

大小銳鈍四角凸起鑿
無細圓等字

鼻

隆卑大小反戾聲又曲鼻梁
高低鼻翼大小鼻孔朝天
大小等字

口

大小上下唇厚薄露齒等字

顯

長短尖圓張彎曲等字

髮

叢書
等字

眉

濃淡疎密長短細大
等字

痘

天然種

別徵

第十七條

七條 徵兵出席ノ名簿ヨリ代人料上納名簿免役名簿其他種々ノ願書及ヒ届書區長戸長ノ取調ヘ証書惣ヘテ徵兵ニ關スル書類ハ一切兵卒明細連名籍ト共ニ陸軍省ニ差出タスヘシ

第六章

徵兵雜則并七二扱方

第一條

條 常備籤ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨ
リ五月一日迄ニ入營致スヘシ其營所迄ハ
府縣毎ニ區括リニシテ區長或ハ戸長ノ内
召連レ出ツヘシ最營所ニテハ籤ノ番号ヲ

目的トシテ入營ナサレムヘキニ付キ齟齬
ナキ様注意スヘシ尤入營迄ノ入費ハ總ヘ
テ徵兵入費概則ニ照準シ賜ハルヘシ若事
故アリ入營遲緩ニ及フキハ其事故ヲ生ス
ル所ヨリ辨スヘシ

但書中區括リト稱スル者ハ區ノ大小
人口ノ疎密ニ由リ二區或ハ三四區括
リ總ヘテ府縣ノ便利ニ從フ

第二條 籤ノ番号ハ服役中ノ目的タルヘキヲ
以各個丁寧ニ所持致スヘシ

第三條 病氣或ハ事故出来期限通り入營相成
リ難キ者ハ其段詳細ニ書認メ區戸長及ヒ
其病氣事故ニ係リタル者ノ証印ヲ取リ其
筋ヲ經テ至急ニ其鎮臺ヘ届出ツヘシ

第四條 常備軍服役在營中其身元轉居スル片
ハ其父兄或ハ親族ノ者ヨリ直ニ本人ニ通
報シ本人ヨリ自己所屬ノ下士ヘ届出ツヘ
シ歸休中ノ者ハ第九條第一後備服役中轉
居ノ届同斷タルヘシ最自己所屬ノ下士ヘ
モ同様届出ツヘシ

衛兵令

第五條 常備軍服役中歸休郷里ニ在リテ死没スル者ハ其戸主ヨリ其筋ヲ經テ鎮臺へ届出ツヘシ

第六條 常備軍在營中病氣ノ者ハ軍醫ノ診斷ヲ以病院ニ入レ治療ビシメ其上ニテ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵籍ヲ除スヘシ最歸縣迄ノ旅費ハ定則ニ照準シ賜ハルヘシ

第七條 父母ノ重病或ハ非常ノ事故出来一時止ムヲ得スシテ歸省ヲ願フ者ハ其親或ハ親族ノ者ヨリ府縣廳ノ真書証印ヲ以所管

ノ鎮臺へ願出ツルニ於テハ詮議ヲ遂ケ許可スヘシ最滞郷日數ハ往來ヲ除クノ外二週間ヨリ長カルヘカラス

但旅費ハ往來共自辨タルヘシ
第八條 第一後備軍ノ復習期限ハ年々十日以前ニ其鎮臺ヨリ布達シ旅費等ハ徴兵入費概則ニ照準シ里程ニ應シ相渡スヘシ若病氣或ハ事故出来ノ者ハ第三條ノ通り届出ツヘシ

第九條 後備軍服役中同府縣内へ轉居スル者

散兵

ハ左ノ第一式ノ通り戸長ノ姓名奥書証印ヲ取り其筋ヲ經テ鎮臺へ届出ツヘシ若他府縣へ轉居スルキハ同軍管ナレハ左ノ第二式ノ通り他軍管ナレハ同式中兵籍御送り方ノ字ヲ第何軍管第何後備軍へ御編入替ト認メ前手續キヲ以願ヒ出ツヘシ

第一式

私儀此度何郡所へ轉居仕候間此段御届申上候以上

年号月日

年号第三後
備軍第何番

何某印

何府縣何郡所住何族或職業

何鎮臺

御中

前書之通相違無御坐候以上

何郡所長

何某印

第二式

私儀此度何府縣何郡所へ轉居仕候間兵籍御送り方相成度此段奉願候以上

年号月日

年号第一三
後備軍第何番

何某印

何府縣何郡所住何族或職業

何鎮臺

御中

前書之通相違無御坐候以上

年号月日

何府縣何郡所長

何某印

第十條 後備軍服役中ノ者若院省使廳府縣ヨリ登庸セント欲スルハ其官廳ヨリ其鎮臺ヘ掛合フヘシ

第十一條 後備軍服役中死没ハ其戸主ヨリ其筋ヲ經テ鎮臺ヘ届出ツヘシ若國禁ヲ犯シ或ハ脱走等ノ者アルハ其府縣廳ヨリ箇條書ヲ以届出ツヘシ

第十二條 全國ノ男兒齡十七歳ヨリ國民軍籍

ニ入り外冠又ハ有車ノ時ニ當リ隊伍ニ編入シ或ハ守衛トナシ或ハ征軍トサシムヘキヲ以十六歳ノ冬十一月十日マテニ其戸主ヨリ戸長ヘ届出ツヘシ最一家ノ主人タル者ハ自分ヨリ届出ツヘシ戸長之ヲ取調ヘ所轄ノ區ヘ差出タシ區長点檢ノ上區括リニシテ府縣廳ヘ差出タシ翌年ノ成丁簿ニ載セ之ヲ備ヘ置キ而國民軍人員表ヲ製シ陸軍省ヘ差出タスヘシ

第十三條 男兒二十歳ニ至レハ兵役ニ就クヘ
キヲ以毎年十二月廿五日迄ニ府縣廳ニ於
テ十九歳ノ者ヲ調ヘ徵兵連名簿ニ載スル
ヲトス是故ニ十九歳ノ者ハ其年ノ十一月
十日迄ニ必戸長ヘ届出ツヘシ戸長之ヲ取
纏、其内免役ニ適スル者アレハ篤ト取調
ヘ夫々箇條書相添ヘ區長ヘ差出タスヘシ
區長ハ十一月廿日迄ニ區括リニシテ証印
シ府縣廳ヘ差出タスヘシ府縣廳之ヲ点檢
シ徵兵連名簿ニ載セ十二月廿五日迄ニ陸

軍省ヘ差出タスヘシ最免役ニ適スル者ハ
區々ヨリ差出タル免役箇條書ヲ取紀
シ免役連名簿ヲ作り各個箇條ヲ詳細ニ書
載セ徵兵連名簿ト共ニ差出タスヘシ其中
學徒ハ夫々其修業スル處ノ學校ヘ試合ニ
教官ノ証書及ビ科目免許書等取寄セ置キ
徵兵使巡行ノ日差出タスヘシ若右証書科
目書等之ナキ者ハ一月中ニ呼返シ置クヘ
シ最洋行修業ノ者ハ此例ニ非ス
第十四條 寄留スル者ノ子弟及ビ厄タル者

律
兵
令

ハ現今寄留スル府縣ノ兵籍ニ入ルヘシ
但本籍ニ歸リ兵役ヲ勤メント欲スル
者ハ十九歳十一月十日迄ニ其段ヲ戸
長ニ届ケ戸長ヨリノ送り書ヲ以テ本
籍ニ歸ルヘシ

第十五條 本年徴兵ニ當リ自己ノ便宜ニ由リ
代人料金二百七十圓上納願出ツル者ハ常
備後備兩軍共之ヲ免ス

免役上納金ハ其府縣廳ニ纏メ五月中
ニ陸軍省ヘ相納ムヘシ

第十六條 免役ヲ願出ツル者ハ其親或ハ親族

ノ者ヨリ徴兵使巡行徴兵検査以前左ノ願
書ヲ認メ戸長ノ奥書証印ヲ以區長ヘ差出
タミ區長ヨリハ徴兵署ニ差出ナスヘシ

其親或ハ親族ノ者願書並ニ
戸長奥書案文

私^{何男}親^{親族}何某儀當年二十歳ニ相成服役
可仕筈之処家事差支リ有之ニ付代
人料金貳百七十圓上納仕候間何卒
常備後備兩軍共御差除被下度奉願

御
印

上候以上

年号月日

何府縣何郡所仕何職或職業

何某印

陸軍徵兵署

御中

前書願出之通相違無御坐候以上

同日

何郡所戸長

何某印

區長進達書案文

當區内免役願出候者幾名戸長ヨリ

奥書証印ヲ以テ別冊之通り差出候

間精細吟味仕候處毛頭不都合ノ筋

無御坐候間及進達候也

年号月日

何郡所署何大區長

何某印

陸軍徵兵署

御中

第十七條 徵兵ニ關スル事件ニ付キ年齡及

父母兄弟ノ有無又ハ虛病其他詐偽スル者

ハ官ヲ欺罔スルノ罪若又戸長或ハ區長取

調ヘ証印ノ上ハ其証印ヲナセシ官吏ハ粗

漏ノ罪尚又徵兵ノ欺妄ヲ隱匿スル者ハ其

罪最重カルヘシ右孰モ常律ヲ以其罪ヲ糾

敬
兵

三十一

ス可キナリ

明治八年十月

陸軍省伺

去ル明治五年壬申十一月徴兵令御頒布以來軍隊諸般ノ制度退々御創定且官名ノ廢置規則ノ變換ニ隨ヒ同令章條中ニ於テモ矛盾或ハ改正ニ係ル件々モ有之逐年全國各兵徴募ノ實際完備候就テハ右徴兵令并同参考章條中不都合ノ處々別冊附箋ノ通取調候間早々御聽可相成度此段相伺候也十月十三日伺ノ趣聞届候條朱書附箋ノ通改正可致事十月廿二日但徴募令ハ一般布告可致ニ付上梓ノ上定例ノ部數差出ヘリ同参考ハ其省ヨリ布達可致事

法制局議案 史官本局歴査

別紙陸軍省伺徴兵令同参考改正ノ儀夫々及檢査候處全ク増補削正ニ屬シ大体ノ旨趣ニ關スル儀ハ無

之候ハトモ實際ニ就テハ不都合ノ慮モ有之候ニ付
本書ハ朱書掛紙ノ通改正相成可然右ハ同省官貢呼
出シ打合也濟ニ有之猶難則第十七條ノ儀ハ下ケ紙
ノ如ク削除候方可然相考候目テ同省ハノ御指令案
共取調仰高裁候也十月日欠第十七條ハ即四令ノ第
十八條草案附紙ノ大意常律ヲ
以テ其罪ヲ糾スハ陸軍權外ノ事
ニシテ贅文ニ屬ス云ヒトアリ

陸軍省伺

徴兵令并全参考改正ノ儀今般同濟朱書附箋ノ通改
正可致旨御指令ノ趣致敬承候然處御附箋中本令第
六章第十七條全文刪去云々ト有之候處抑本令ノ如
キハ專ラ民法ニ關涉多キヲ以テ軍民兩律ノ分界ヲ
普ク知ラシメシメカタク正院ヨリ御頒布相成候上ハ
素ヨリ當省權限ノ内外ニ關係致シ候儀ハ有之間敷

加之冊尾ヲ區戸長ノ届式ニ止メ候モ不束ニ存候旁
從前ノ儘被差置度其他郡邑ヲ區邑トナシ附籍ヲ厄
介トナス等彼ヲ改行此ヲ改メサルカ如キハスヘテ
御附箋ニ基キ一様ニ校正可致候此段更ニ相伺候也
十月二十八日

伺ノ趣聞届候事十一月四日

法制局議案 史官本局歴查

陸軍省再伺徴兵令并全参考改正ノ儀審案候處第六
章第十七條ノ儀ハ從前ノ儘掲置候共格別不都合ノ
儀モ無之候付上請ノ通御聞届相成候方可然裁仰高
裁候也十一月二日

第一科議案 史官本局歴查

徴兵令参考改訂ノ儀過日御裁下ノ末徴兵令上梓製

本追々出来候ニ付テハ全國一般ノ頒布相成可然ト
存候此段相伺候也十一月四日

神武天皇御紀元二千五百三十六年

二月四日 九年

陸軍省へ達

別紙海軍省上請主船索定雇職工徵兵年役免除ノ儀第
九號ノ通布告候條心得ノ為此旨相達候事

海軍

第九號

明治八年十一月第十六號布告徵兵令第三章第四條
左ノ通改正候條此旨布告候事 二月四日

徵兵令第三章

第四條 陸海軍ノ生徒并ニ主船索定雇職工ノ者

海軍省上請